PUBLICITY NEWS 69 学院広報 2014.1.7

平安女学院がマスコミに報道されました！！

貴品女性を育成するレセプショニストクラブ

（2013・7・10 教育学術新聞）

「レセプショニストクラブ」は、"貴品女性"の育成を標榜する平安女学院大学の象徴的なクラブである。

「ホスピタリティ・マナー」を専門とする教員によるきめの細かい指導のもと、京都が世界に誇るホスピタリティを身につけ、基礎から実践まで、プロなみの活動実績を挙げている。

言葉づかいや立ち居振る舞いはもちろん、メイクや着こなしまで徹底してマスターし、コンサートや国際的なコンベンションのアテンド業務など、ビジネスとして積極的に実践に携わっている。

"貴品女性"育成「レセプショニストクラブ」 平安女学院大学

国際観光学部の学生が「おすすめ店」の紹介冊子を作成

（2013・10・30 京都新聞）

府庁周辺

お薦め店、冊子に

平安女学院大生が作成

京都市上京区の京都府庁周辺の飲食店や名所を紹介する「府庁かいわい街ぶらまっぷ」を、平安女学院大国際観光学部の学生が地域の住民らと協力して作成した。府庁や掲載店などで無料配布している。

2年生33人が授業の一環として、飲食店の執筆を担当した。数人のグループに分かれて、大学の近くでもある府庁周辺を歩いて店を探し、自費で「潜入取材」。その後、趣旨を伝えて掲載を承諾してもらい、お薦めメニューや店の特徴などを取り上げた。洋食やラーメン、スイーツなど計15店を紹介している。

担当した石見葉月さん（20）は「私たちのお薦めの店に、行ってみたいと思ってもらえるよう工夫して書きました」と話していた。

ほかに、地元のNPOが地域の史跡や歳時記を紹介、石碑めぐりや洋館特集などテーマに沿った散策コースも提案している。冊子はA5判、30㌻。（阿部秀俊）

京都府庁周辺のお薦めスポットを紹介した冊子（京都市上京区・平安女学院大）

明治館・昭和館・聖アグネス教会を展示紹介

（2013・10・25～ 企画展「京の赤煉瓦の学び舎と設計者たち」

於：舞鶴市立赤レンガ博物館）

平安女学院の歴史あるパワースポット

（2013・9・11 教育学術新聞）

キャンパス万華鏡 写真が語る 大学の横顔

歴史あるパワースポット

平安女学院大学

「菅原道真の古井戸」

平安時代前期の学者・政治家で、学問の神様・天満天人として称えられた菅原道真が生まれた時の産湯に使われたと言われる古井戸が、平安女学院の京都キャンパスにある。まさに「学問の神様」に見守られている。

「斯波氏武衛陣・足利義輝邸遺址」

同大京都キャンパスの一帯は、室町時代、足利尊氏が、その一族である斯波義将にこの地を与え「武衛陣の屋敷」と呼ばれた。斯波氏がこれを相続したが、応仁の乱で焼失。その後、足利将軍の幕府は、斯波氏の武衛陣を修理してここに幕府を移した。足利義晴の子・義輝は、一五五〇年にこの邸に住み、のちにこれを拡張し一帯を「二条勘解由小路の御所」と呼んだ。

「旧二条城跡」

一九二八年、平安女学院の校舎建設工事の際、大きな焼石や瓦、信長の家紋付の瓦が出土したことで、現在の京都キャンパスの一帯が「旧二条城」であることがわかった。この城は、織田信長が一五六九年に室町幕府の将軍・足利義昭のために築いたものであり、義昭が信長に追われてからは、信長自身の居館となり、入洛の際、しばしば住んだ所。一五八二年本能寺の変の際、明智光秀により焼かれ、廃城となった。

「菅原道真の古井戸」

「斯波氏武衛陣・足利義輝邸遺址」

「旧二条城跡」

中学の授業で、がん経験者から命の尊さを学ぶ

（2013・11・20 京都新聞）

がん経験者 命の尊さ語る

平安女学院中

自身の闘病生活などを語るがん経験者「がん教育メッセンジャー」による授業が19日、京都市上京区の平安女学院中であった。がんを患った女性が、早期発見と早期治療の大切さを訴えた。

メッセンジャーによる授業は、府の「生命のがん教育推進プロジェクト」の一環。この日は、2004年に子宮頸がんが見つかった山口道子さん（61）＝大津市＝が教壇に立ち、3年生3クラス計66人の生徒に話し掛けた。

山口さんは職場の健康診断で判明した当時の心境を、「真っ暗な世界にいるようで、何もできない自分が情けなくてつらかった」と振り返った。

また、入院生活などで家族の優しさに支えられたことや、仕事に復帰できた際の喜びを語った。「まさか私ががんになるとは思いもよらなかった。健診と治療で救える命がある。自分自身の体を大切にしてください」と呼び掛けた。（宇都寿）

自身のがん経験を生徒に話す山口さん（京都市上京区・平安女学院中）

産学連携セミナーで、国際観光学部の学生が研究発表

（2013・9・5 京都新聞）

京への誘客 方策話し合う

産学連携セミナー 学生の研究発表も

下京

「目指せ 観光立国日本」をテーマにした産学連携のセミナー（日本観光振興協会主催）が4日、京都市下京区のホテルで開かれた。観光業者ら約180人が参加する中、京都の魅力や外国人観光客を増やすための方策などが話し合われた。

まず、京都大や平安女学院大の学生らが観光振興をテーマに研究発表した。続いて「京都が牽引する観光立国日本」と題したパネルディスカッションがあり、ハイアットリージェンシー京都の横山健一郎総支配人と大和学園の田中誠二理事長、妙心寺塔頭春光院の川上全龍副住職、安藤人形店の安藤啓子さんが意見を述べた。

京都の魅力について田中理事長は「学術、文化、芸術、自然が融合する京都独特のライフスタイルが地元の誇りであり、それが観光客を引き付ける」とし、横山さんは「調度品に伝統工芸を使うなど、ホテルそのもので京都を発信できるよう努力している」と、取り組みを紹介した。

また、観光客を増やす方策として川上さんは「国内需要で満足せず、海外へもっとアピールすることが必要。訪日観光客の20%しか京都には来ておらず、伸びしろが大きい」と指摘。安藤さんは「人形を買い求める外国人から、逆に日本人が大切にしてきた心を学ぶことがある。ぜひ日本人に『本物』を見つめ直してほしい」と話した。（藤松奈美）

京都の観光活性化について議論したセミナー（京都市下京区）